



「熊本地震の被災地へ派遣された高山日赤(棚橋忍院長)の医師や看護師らが、二十一日から熊本赤十字病院で救急対応に当たったという「崩れた屋根瓦を直そう」として転落した人や、断

「熊本地震の被災地へ派遣された高山日赤(棚橋忍院長)の医師や看護師らが、二十一日から熊本赤十字病院で救急対応に当たったという「崩れた屋根瓦を直そう」として転落した人や、断

水で用が足せず腹痛になつた人が運ばれてきました。震災から時間が経つにつれて精神的、肉体的な疾患が増えました」などと話していた。

また、救護班は二十二日から南阿蘇中学校周辺の避難所を訪問し、被災者の診療や心のケアなどを行ったが、土砂崩れなどの影響で、日によっては行けない場所もあったという。「水回りが不潔だったり、避難者が土足で入っている避難所もありました。感染症が広がらないような衛生管理が今後の課題です」と看護師長・伊藤はるみさん(56)。いずれも二十四日まで活動し、二十五日に帰高した。